

平成 28 年度第 2 回高知県医薬連携及びセルフメディケーション推進協議会
議事録

日時：平成 29 年 2 月 8 日（水） 19：00～21：00

場所：高知サンライズホテル 2 階 はつひ

出席者：高知県医薬連携及びセルフメディケーション推進協議会委員 5 名、委員代理 1 名
事務局 5 名

1. 開会挨拶

医事薬務課 西森課長より開会の挨拶があった。

2. 患者のための薬局ビジョン推進事業について

(1) 平成 28 年度事業報告

事務局より、高知家健康づくり支援薬局の整備、在宅医療への薬局・薬剤師の参画の推進、アウトリーチ型活動による健康づくりの推進について、平成 28 年度の活動状況の報告があった。

◆質問及び回答

Q1. (委員)

高知家健康づくり支援薬局の継続をしなかった、できなかった薬局が再度支援薬局になっていただけるような取組みを考えているか。

A1. (事務局)

高知家健康づくり支援薬局の継続については、継続案内をお送りし、継続申請が提出されなかった薬局すべてに聞き取りを行った。聞き取りの中で、継続したいが要件を満たすための研修受講回数が足りないため、今後研修受講に努め、要件をクリアした際に再度申請をするという薬局も何件あった。そのためにも、認定研修の日程周知の徹底や、高知県薬剤師会主催の研修会のうち、支援薬局の認定研修となっている研修の受講者情報を共有することにより、薬局にピンポイントで連絡をすることや、チェーン薬局については本部への話しかけをすることを考えている。実際、該当薬局があり、個別アプローチを始めたところ。

Q2. (委員)

高知家お薬プロジェクトやアウトリーチ型活動についてのアンケートをこれからまとめるということだが、その結果はこの協議会で報告することを考えているか。

A2. (事務局)

平成 29 年度の協議会で報告するとともに、この結果をもとにこのような事業の進め方を考えているということをお示しする予定。

◆意見

- ・高知家健康づくり支援薬局の継続申請ができなかった薬局へ理由を聞いたところ、「高知家の薬剤師」が他店へ異動、退職したために要件を満たさなくなったという薬局もあった。薬剤師が複数勤務している薬局については、なるべく複数名が「高知家の薬剤師」と登録できるよう、認定研修の受講促進に努めないといけないと感じた。

(2) 平成 29 年度事業計画案

事務局より、平成 29 年度事業計画（案）について説明があった。

◆質問及び回答

Q1. (委員)

高知家健康づくり支援薬局の取組み説明会は来年度も実施されるか。また、実施するならいつ頃か。

A1. (事務局)

6～7 月頃に実施予定。全薬局対象で実施し、県の健康づくりに関する重点取組み項目のご説明をする予定。

Q2. (委員)

高知家お薬プロジェクトのモデル地区を拡大するということだが、高知県内の薬局の約半数を占めている高知市の 4 つのブロックのうちの 1 つをモデル地区とすることは考えてもらえるのか。

A2. (事務局)

他の在宅医療に関する事業を実施している関係課との情報共有を行い、薬剤師会支部や現場薬剤師と意見交換をして地域の実情を把握したうえで、高知市を含めてモデル地区を検討していく。

◆意見

- ・実際に在宅訪問をするとき、吸入薬等については独居や認知がある方はほとんど指示されている通りに飲めていない。その場合は、ご家族や主治医に相談している。訪問薬剤師には、訪問看護師が訪問しない日やご家族が不在の日に訪問してもらう、また、お薬カレンダーやお薬手帳等を利用する場合もある。薬剤師やケアマネ等は連絡ノートを活用し、誰が飲ませたか等の情報共有に努めている。

◆情報提供（高知市の病院から在宅への連携の取組みについて）

- ・病院から在宅への連携の現状として、医療から医療へ紹介は実施されているが、病院からケアマネに対する情報提供等、医療介護の連携が不十分ではないかということで、今年度ケアマネへのアンケートを実施した。結果として、病院からケアマネへの退院時の引き継ぎは約 1/4 が「引き継ぎなし」と回答し、ケアマネから病院への入院時の情報提

供書の提供については、約半数が「提供できていない」という回答であった。これらの理由としては、一人が一つの病院に情報を提供しようとしても、それぞれ窓口が分かれていたり、誰に提供していいかが分からない状況がある。

- ・高知市の引き継ぎルール案としては簡単なもので、今後、ルールを作り、賛同していただいたところから取り組みを開始することになっていて、現在、ケアマネ協議会や病院への説明会をしたところ。今後、医療・ケアマネ合同協議を実施、合同説明会を開催し、手を挙げていただいたところで、入・退院引き継ぎルール運用を開始し、半年後に実施状況の調査や見直しをするというスケジュールを考えている。
- ・地域包括ケアの中で医療機関の地域相談室とケアマネでまずはこの取り組みをはじめ、続いて医療機関の先生、訪問看護師、モデル地区の薬局と順次広げていこうと考えている。この取り組みが進んでいけば、高知家お薬プロジェクトに繋がっていくのではないかと考えている。

3. その他

(1) 高知家健康づくり支援薬局の認定要件について

事務局より認定要件について説明があった。

◆意見

- ・今後も研修受講についての効果的な周知を行ってください。

(2) 健康サポート薬局の認定等について

事務局より健康サポート薬局の概要、全国の認定状況について説明があった。

質問及び回答

Q1. (委員)

今後の予定や周知方法について教えてください。

A1. (事務局)

必要な研修終了証、薬局で作成する手順書等の関係書類を整えて県へ提出。届出をいただいた後、こうち医療ネットで検索ができるようになる。また、今後、国でもPRをしていくことになるだろう。県としてもHP等で周知を行っていくこととしている。

(3) 高知県医薬連携及びセルフメディケーション推進協議会設置要綱の改正について

事務局より改正概要について説明があり、本協議会において承認された。

◆次回開催日時

平成 29 年 6 月頃予定